

第6回 イノシシ対策にワイヤーメッシュ柵も有効！

農研機構 畜産研究部門 動物行動管理研究領域 堂山宗一郎氏

岩手県内では、イノシシやシカの対策として主に電気柵が使われていますが、全国的には金網などを使った物理的に侵入を防ぐ柵も広く普及しています。特に金属製のワイヤーメッシュは強度もあるため、西日本のみならず宮城県や福島県、北陸地方などの積雪地域でも柵の資材として利用されています。岩手県内でも積雪が 50cm 程度までの地域で設置する場所が平地であれば、ワイヤーメッシュ柵も雪で壊されることが少なく、有効に利用できると思います。

ワイヤーメッシュは長さ 2m 幅 1m で売られているため、柵として設置すると高さが約 1m になりますが、イノシシ用であればこの高さで十分です。この高さでは、イノシシがジャンプや乗り越えて柵の上から侵入することはほとんどありません。

イノシシは、ワイヤーメッシュ柵の地際を鼻で押して壊し、そこから潜り込むように侵入します。イノシシがどの程度の重さを鼻で押すことができるかを調査したことが

あります。その結果、イノシシは自身の体重と同程度の重さまで鼻で押して動かせることが分かりました。丈夫そうに見えるワイヤーメッシュ柵も、設置状況などによってはイノシシに壊されてしまうことがあります。地面が柔らかい場所やイノシシが頻繁に来る場所では、柵の地際にペグを打って固定したり、ハウスパイプや竹などの長い資材を地際に這わせて柵と固定したりするなどの補強によって、イノシシに壊されにくいワイヤーメッシュ柵になります。

